

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370700472		
法人名	コンフォート有限会社		
事業所名	グループホーム楽々園		
所在地	岡山県井原市大江町4505-5		
自己評価作成日	平成30年3月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成30年4月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族的な雰囲気の中で、14名のご利用者が生活しています。洗濯物干し、たたみ、お盆吹きなど出来る事は手伝っていただく事で、役割意識を持っていただけるようにしています。四季折々の行事を計画し楽しく季節感を感じられるようにお出かけを工夫し、地域の行事にも積極的に参加しています。職員は、ご利用者おひとりおひとりの言葉を引き出すために、ゆったりと話しかけるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設者の介護への志を受け継いだ、代表者と管理者、職員が一つになり、日々努力している事業所です。入居者の高齢化 重度化に柔軟な対応を心掛け、今 現状の職員で出来る介護に努めています。地域の清掃活動等に積極的に参加するなど地域との繋がりを大切にしたり取り組みが窺えます。入居者に対する尊厳やプライバシーへの意識の徹底に努め、家庭的な環境のもとでその人らしい生活を大切にしたりした支援に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で、安心して生活できるように理念に基づいた介護をしている。	理念を基にした援助に取り組むため、常に職員と話し合いの場を持ちながら、理念に沿ったケアの実践に努めています。理念を玄関に貼って常に目に入るようにしています。	職員の意見も取り入れながら理念を検討され、新たな目標に向われることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方に、通勤途中、散歩途中で出会ったときには、挨拶を行っている。地域の行事に参加する野菜をいただくなどの交流がある	入居者と一緒によく散歩に出かけ、近所の方と顔見知りの関係が出来ています。地域の活動・行事にも地域の一員として参加し、日々交流に努めています。	身近な地域組織(町内会など)に加入し、今まで以上に地域との関係構築に取り組んでいかれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を通して、地域の方に、認知症についての理解や、介護についてお伝えしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族に参加を呼びかけ、民生委員、町内会長、市の介護保健課の方へ出席していただき、施設での取り組み、現状を説明し、ご意見アドバイスを戴きながら改善している	家族にも運営推進会議の開催通知をし出席依頼している。自治会長、民生委員、市の担当者も毎回出席し、地域での認知症に対する理解に取組み支援の向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事は、井原市介護保健課に相談し、教えていただき、井原市介護事業者連絡協議会に出席し、運営推進会議にも出席していただいている。	運営推進会議の場を活用し、市の方とも交流を深めています。事業所からの相談 質問等への対応もスムーズに行なわれており、日頃から良好な協力関係の取組みが窺えます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止についての勉強会を繰り返し実施し意識の向上を図っている	身体拘束の基礎知識は常に勉強会を実施し、職員全員が理解できるよう努め、拘束しないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会、社内研修、職員トイレに虐待についての資料を貼るなど、意識を高める様図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されているご利用者はいない為意識が低いと思われる。勉強会を開く必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約を行う際、丁寧に説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会時、職員がお話を伺う様にし、ご意見箱を設置している。ご本人にも要望は日々お聞きしている	家族が気兼ねなく話せるような雰囲気づくりに努めています。又、手書きで入居者の近況等、毎月手紙を送り良好関係構築に取り組んでいます。意見、要望は職員と話し合いながら運営に反映するように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を毎月行っており、そこで意見を聞き、話し合っている	毎月の全体会議で職員、ケアマネ、管理者それぞれが意見を出し合い運営に反映する様取り組んでいます。	職員からより多くの意見が出るように（具体的な例を出すなど）、方法を工夫し運営に反映されるよう期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞きながら、出来る事は積極的に改善している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を積極的に行っており、社外研修についても、研修の案内を提示している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	井原市介護サービス事業者連絡協議会ほか研修等で他の事業者と連携をとり、情報収集を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談では、ご本人ご家族の困っている事、要望、思いを聴き出し、職員で共有する		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面談し、入所の際しての心配事や、不安に思っておられる事を説明している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の思いを計画に入れ説明し、同意を戴いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人にも、洗濯物干し、たたみ、お盆拭きなどできる事をしていただきながら、協力していただいで感謝の気持ちを伝えている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に現状を説明し、協力をお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加する事や、近くの協力病院に受診時など、知人に声をかけられ会話を交わす、面会に来られたご家族、友人、近所の方などと居室でゆっくりと話していただけるような環境を作っている	入居年数が長い方は、ここでの新しい馴染みの関係づくりも出来ています。入居者のほとんどが地元の方で、地域との繋がりもあり気軽に声を掛けられたり、これまでの暮らしの継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの会話や、レクレーション、お出かけにより親しい関係ができるように図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、施設外でお会いする事があれば挨拶し、相談事があれば相談に乗っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報や、本人との会話により希望や意向を引き出し、ニーズに取り入れている	入居者とじっくり話をする時間を取り、本人の思いを大切にされた対応ができるよう職員が個別ケアを心掛けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居日に、ご本人や家族との面談、それまでの担当ケアマネ、入院中であれば病院から情報を入手し、把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のかかわりの中から把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントをしっかり行い計画を立て、カンファレンスによりモニタリングを行い、計画の見直しを行っている。	計画作成担当者もケアに携わり、間接的ではなく直接的に入居者の気持ちを大切にされた計画に取り組んでいます。また、現場職員、家族の意見も取り入れ現状に合った介護計画作成に取り組んでいました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録を作成し、申し送り時に申し送っている、モニタリング時にも介護記録を活用して、計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の生活の中で、突発的なニーズが生じる事があり、その都度柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで、地域の行事の情報をいただき、参加できそうなものには参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個人個人が必要とされるかかりつけ医を、家族と相談し受診し、協力病院の医師には毎月往診をしてもらっている	家族、職員が互いに協力し合い病院受診に努めています。往診なども利用しながら医療連携に取り組んでいます。認知症専門医との連携もあり個々に合った受診支援に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいないため、協力病院やそれぞれのかかりつけ医の看護師に相談しアドバイスを戴いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院には同行し、医師や看護師から説明を受け、その後利用者の情報を伝え、随時連絡を取る、訪院するなどして、連携を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の説明の中に、看取りケアは行っていないことを説明し、終末期にはどのような対応を望まれているか意向を伺っている	現在までに、看取りは経験していませんが、家族から終末期の看取りについて相談・要望等があり、前向きに取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、事故発生時のマニュアルを作成し共有している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回消防訓練、地震訓練を行っている	防災訓練を年2回行なっています。運営推進会議に於いて家族に緊急時の避難場所を伝え安全、安心に努めています。	職員が休み又、夜間時に発生した地震 火災等の災害時に全職員がどれだけ対応できるかなど、具体的な対応の訓練を実施されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉による虐待もあることや、親しくなり過ぎる事による、人格を尊重していない言葉かけをしないように、注意あっている	入浴や排泄介助でのプライバシーへの配慮を基本とし、職員研修等で尊厳を損なわない言葉かけや対応に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で希望や思いを汲み取り、会話する時に、自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者により過ごし方は違いがあるが、希望が表現できない場合は、こちらからいろいろ提供してみる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の要望にあわせて服を選んでいただくが、要望が無い人には職員が選んでおり、入浴時に着替えている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員とご利用者がいっしょに会話しながら食事をし、片付けもお盆拭きなど手伝ってもらっている	入居者の状態に合わせた硬さ量など、一人ひとりの食事の提供を心掛け完食を目指し、盛り合わせに工夫が窺えました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は3食記録し、その人に合った形態で提供している。トロミ材なども使用している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア、義歯洗浄を自力または介助により行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンは異なる為、トイレ誘導、オムツや紙パンツの使用、日中と夜間の違いなどにより異なった対応をしている	日中は入居者一人ひとりのサインを見落とさずさりげない声掛けでトイレに誘導し自立への支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘により不穏状態になる場合も考えられる為、水分摂取を促し、繊維質の食品を多く摂るなどの対応し、糞糞状態を確認記録しているが、必要に応じ、処方された下剤を服用する場合もある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応順番を決めておが、ご本人の希望にあわせて、中止変更を行う場合もある	入浴は週3～4回と決めており、非常に密なケアの実践が窺えます。又、時間帯は変動することもあり個々に沿った入浴支援が実施されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や希望により、休息したり、テーブルに伏して傾眠されているが、夜間良く眠られるように、昼寝をしないといわれる方もある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医処方の薬を決まっている通りに服薬できる様介助している。状態の変化は良しに付け悪しきに付け報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で、洗濯干し、たたみ、お盆拭き、おしぼりたたみなどできる役割を行ってもらっている、気分転換も兼ねて、季節のお出かけや手作業なども行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとのお出かけ、初詣、お雛様見学、お花見、ひまわりコスモス彼岸花見学、案山子祭り、秋祭り、紅葉など、地域の人や家族からの情報をいただいて行っている	事業所の立地を生かし、散歩に出かけるなど日常的に外出が出来ます。季節ごとに花見祭りへの参加等いろいろな機会を作り外出支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持って買い物をするのではなく、所持金は家族に渡している、無くなったりトラブルになる事があるため		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望なら電話のやり取りは行うが、難聴の方が殆どであり、困難である、字を書くこともできない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの貼り絵や壁面作りを行っており、刺激的なものは何も無い	入居者が、心地よく過ごせるよう、職員のきめの細かい配慮が窺えました。大きな窓から見える風景が、入居者の心和むものとなっているようです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席を気の合った人同士で隣り合わせに座れるようにしており、ソファーやテレビの前に座ることができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者それぞれがご家族との話し合いでお好きなように、配置しておられるが、なじみの物やお好みの物を持参されるように話している	入居者の馴染み思い出のある備品を持ち込み、家族の協力のもと、個々に合った居室作りができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺やトイレの表示により、安全や自立に配慮した内部になっている		